

# 馬獣医のよもやま話 ⑧ 西村信義獣医師

## 子馬の初乳の管理

西村 信義 大阪府出身  
平成5年 大阪府立大学卒業  
日高軽種馬農協門別診療所勤務



今シーズンもそろそろ出産、種付けのシーズンが始まってきています。生まれてきた子馬は下痢や肺炎の感染症の心配な時期が始まります。生まれて2ヶ月までの子馬の免疫(感染症などに対する抵抗力)は生まれて24時間以内に飲む初乳からの移行免疫がほとんどです。良質の初乳を十分に飲まなければ免疫移行不全の状態となり感染症にかかる危険が高くなります。

そこで牧場で分娩時の初乳の質を調べて、牧場の中で良質の初乳は少し分けてもらって、悪い馬に与えるという管理を行えば、子馬の病気の予防になります。

### 1 初乳の測定

初乳の質を検査するのに、一般的には糖度計が使用されBrix値が指標となります。初乳を数滴採取して測定しますがデジタルとアナログの二種類があります。デジタルのものは約25000円、アナログのものは約17000円で購入できます。



Brix値30以上	良質と考えられるので、子馬に飲ませる前に採取してストックしておきます。
Brix値20~30	普通、子馬に直接飲ませてやります。
Brix値20以下	このまま初乳をのませても初期免疫が十分に獲得できない可能性が高いので、ストックしてある良質の初乳を飲ませてやります。

### 2 ストックの方法

初産の馬や老齢馬では初乳の質は良好でも量が充分でないことがありますのでストックはしないほうが良いでしょう。もし新生児黄疸を発症したら、その初乳はストックしないで捨ててください。もし他の馬に飲ませればその馬も黄疸になります。

初乳は乳房を清潔なタオル等で拭いてから、ボウルや哺乳瓶などの清潔な容器に採取します。Brix値30以上であれば400ml、Brix値35以上あれば600mlくらい採取できるでしょう。ガーゼなどで採取した初乳を濾過して汚れなどを取り除きます。その初乳を冷凍するのですが、ドラッグストアなどで人間用の母乳ストッ

ク用の袋が市販しているのでそれを利用し、100ml位で小分けにしておくのが便利です。家庭にあるジプロックなどしっかりと密閉できる袋でもいいです。袋には採取した年月日、母馬の名前、糖度Brix値を記入して、冷凍庫で冷凍しておいてください。一般の冷蔵庫でも1年間は充分質を保つことができます。



### 3 初乳の投与法

初乳のBrix値が20以下のときは、充分な移行免疫が得られない可能性が高いので、ストックしてある初乳を飲ませてやります。基本はストックしてある古いものから使用してください。ストックしていた初乳は自然解凍するか、ぬるま湯で解凍してください。高温にしてしまうと初乳の免疫は蛋白質なのですぐに壊れてしまい、せっかくの初乳が台無しになってしまいます。また一度解凍したものは使い切るようにしてください。Brix値20以下では400ml、Brix値15以下というときには800mlは初乳を与えてください。良質の初乳であれば充分に免疫が移行されます。過去に新生児黄疸を発症した母馬の初乳は断乳しなくてはなりません。まったく母馬から初乳が取れない為、ストックした初乳をしっかり与えてください。母親の初乳につく前であれば哺乳瓶で簡単に飲ませられると思います。一回の哺乳量はまだまだ多くないので数回に分けてあげてください。子馬の腸の免疫物質を吸収する能力は時間と共に減少し24時間で吸収できなくなるとされています。できるだけ速く投与してください。もし飲まなければ獣医師によって鼻から強制的に投与が必要になるので連絡してください。

### 4 フォールチェック

初乳を与えた場合でもそうでない場合も、生後12から36時間くらいでのフォールチェックをおすすめします。初期免疫では初乳の質、量が充分でなければなりません。それが充分であったとしても腸の吸収が充分でなければ、初期免疫が低いことがあります。その他の新生仔の病気などの早期発見にもつながります。そこで初期免疫がかなり低ければ、他の馬(多くは母馬)からの血漿輸血することもあります。初期免疫が低いからといって必ず病気になることはないですが、病気になるれば重篤化することもあります。

新生仔には感染症など病気の危険が高く、しっかりとした予防が大切です。何かあったときも初乳のストックがなければ与えられません。できるだけ初乳を確保しておきましょう。